平成２７年度　壬生町立睦小学校　　Ｎｏ.８　１２月１７日

あ　ゆ　み

〈教育目標〉
やさしく
かしこく
たくましく

もうすぐ冬休み

９月１日に始まった二学期も、もうすぐ終わります。二学期は、よく『行事の学期』と言われます。子どもたちが成長する大きな節目となる学校行事や学年行事などが、教育課程の一環として多く計画されているからです。二学期は、そのような行事を通して、同学年の中で、また学年を超えたところで助けたり助けられたり、教えたり教えられたりと、子どもたちの様々なつながり・深まりが見られました。二学期の間の子どもたち一人ひとりの頑張りに大きな拍手を送りたいと思います。

さて、二学期の子どもたちの成果や課題については、終業式にお渡しする『学びのすがた』でお伝えしますが、ぜひお子様と十分に話し合う時間を作り、一緒に振り返っていただきたいと思います。子どもの至らなかったところを指摘し、しかることもありますが、日々努力を重ねできるようになったことを認め、励ますことが大切だと思います。親や教師から認められていると実感することができれば、子どもはいろいろなことに前向きに取り組んでいくようになります。子どもたちの自尊感情を育むため、今後も保護者の皆様方と学校が連携していきたいと思います。ぜひ、子どもたちを応援してあげてください。

また、本年のさまざまな学校行事やＰＴＡ行事・活動、環境整備や学習支援など本校の教育活動を支えてくださいました保護者の皆様、地域の皆様、ボランティアの皆様方に厚くお礼申しあげますとともに、来年も皆様方にとって、幸多い年となりますことを祈念申しあげまして、本年最後の『あゆみ』とさせていただきます。どうぞよいお年をお迎えください。

楽しみなお年玉

お正月、子どもたちがとても楽しみにしているのが『お年玉』ですね。『お年玉』ってどうしてもらえるのでしょうか。

昔、ほとんどの日本人は神様を信じていました。そして、１年の最初であるお正月には、それぞれの家に神様がやってくると思っていました。お正月に、飾りをしたりお供えをしたりするのは、すべて神様のためだったのです。正月にやってきた神様は、お供えをしてくれたお返しに、その家の人たちに『新しい魂』を与えます。神様からもらった新しい魂、この魂のおかげで、人々は１年間健康に生きていくことができると考えていたのです。この『新しい魂』が『お年玉』です。つまり、『お年玉』は、目に見えないものだったのです。

それでは、なぜそれがお金に変わって、しかも子どもだけがもらえるようになったのでしょうか。昔、神様から『お年玉』をもらえるのは、その家の家長だけでした。そこで、家長はもらった目に見えない『お年玉』を、お金や記念品のような目に見える形にして、子どもたちに分けあたえたのです。『お年玉』は古来より、その家の家長にあたる人が、家族に対してあげるものなのです。中学生や小学生、幼稚園や保育園の子どもにあげるお小遣いは『お年玉』とはいいません。『お年玉』の『玉』は、実は『魂』の『たま』なのです。一族の長が新しい年にあたって、一族の繁栄が永遠に続くように子どもたちに『一族の魂』を伝えるための伝統的な儀式であるといっていいでしょう。

親が子どもに対して、この１年の安全と幸せを願って愛情のこもった『魂』を伝えていく、これが『お年玉』の本来の目的です。そんな『お年玉』ですので、無駄遣いをせずに、大切に使ってほしいと思います。

人　間　は　す　ば　ら　し　い

１１月３０日（月）～１２月４日（金）は校内人権週間でした。世界人権宣言の中で『すべての人間は、生まれながらにして自由であり、尊厳と権利において平等である』とうたわれています。

本校ではこの１週間、道徳の授業やお昼の放送での作文発表、人権集会などを通して、改めて身の回りの人権について考える機会としました。私たちは、ややもすると自分のことだけを考えてしまいがちですが、子どもたちには、周りの人を思いやる気持ち、その心を形として表わしていくことが大切であること、周りの人を大切にすることは、何よりも自分自身を大切にすることにつながることに気づいて欲しいと願っています。

また、子どもたちにはそれぞれ良いところがあります。それをお互いに認め合い、自信を持って生活してほしいと思います。子どもたち一人ひとりには『素晴らしい力』があります。その力を動物作家の椋鳩十（むくはとじゅう）さん（「大造じいさんとガン」などの作者）は、『人間はすばらしい』という本の中で次のように述べています。

「人間は動物として生きるための力のほかに一人ひとりに、それぞれ別の力が与えられている。絵の上手な人、歌の上手な人、手先の器用な人、口の達者な人、全員それぞれ『すばらしい力』を持っている。君たちは、自分の中に素晴らしい宝を持っている。そういう力を出すために、勉強したり、本を読んだり、感動したりして自然と力が湧いてくる。力が出たとき初めて『あっ、自分にはこんな力があったのか』と思う。私が君たちと同じ歳の頃には、作文は甲、乙、丙の三つの成績に分かれていた。丙が一番下、私は卒業するまで、作文はいつも丙の一番下だったけれど、ものを読んだりなんかするのが好きで、本を読んだり、書いたりしているうちに、ものを書いて生きる人間になったんだ。そう、君たちみんな、『すばらしいちから』を持っているんだから、これからは、そういう自分の持っている力をどのように出すか、そういうことが大事だと思う。顔を見ると、みんな利口そうな顔をしている、必ず君たちは将来、それぞれの力を発揮すると思う。」（椋鳩十著　『人間はすばらしい』」偕成社）

新年を迎えるにあたり、ぜひ大きな夢や希望を持ってほしいと思います。

親子ふれあい清掃ありがとうございました

１２月１６日（水）の親子ふれあい清掃では、年末のご多用の中、多くの保護者の皆様にご協力をいただき、誠にありがとうございました。

おかげさまで隅々まできれいな教室・学校で新しい年を迎えることができます。子ども達はお家の方の働く姿を見て、勤労の尊さ、ありがたさを感じたことと思います。先月号にも載せたように、年末は『働（傍を）らく（楽にする）』を実感させる良い時期だと思います。お子様に大掃除や料理などで家の手伝いをさせるなど、『家族の一員としての役割』を果たさせることはとても大切です。ぜひ何か仕事を決めて、自分が役に立っていることを感じさせてもらいたいと思います。